

# 社会政策学会 Newsletter

◇学会本部 法政大学大学院公共政策研究科 禹宗杵研究室  
URL : <http://jasps.org> TEL : 03-6457-5953 E-mail : [jongwon.woo.56@hosei.ac.jp](mailto:jongwon.woo.56@hosei.ac.jp)  
◇編集・発行 禹宗杵 (代表幹事) 首藤若菜・禿あや美 (Newsletter 担当幹事) 熊沢透 (事務局長)  
◇事務センター 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2丁目 39-2 大住ビル 401  
㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 社会政策学会事務センター  
TEL : 03-5981-9824 FAX : 03-5981-9852 E-mail : [g048jasps-support@ml.gakkai.ne.jp](mailto:g048jasps-support@ml.gakkai.ne.jp)

## 【目次】

1. 第 148 回 (2024 年春季) 大会のお知らせ
2. 第 149 回 (2024 年秋季) 大会のお知らせ
3. 第 149 回 (2024 年秋季) 大会の開催予告および報告募集
4. 第 147 回 (2023 年秋季) 大会報告
5. 第 147 回 (2023 年秋季) 大会会計報告
6. 専門部会活動報告
7. 2022-2024 年幹事会報告
8. 承認された新入会員

## 1. 第 148 回 (2024 年春季) 大会のお知らせ

第 148 回大会は、2024 年 5 月 18 日 (土) と 19 日 (日) に慶應義塾大学三田キャンパスにおいて、本塾大学経済学部附属経済研究所と共催されます。

学会ホームページで確認すると、戦前の社会政策学会が本塾大学で初めて開催されたのは 1909 年の第 3 回大会でした。戦後の第 1 回大会は、東京大学と本塾大学で開催されました。通算で、本大会は本塾大学における 7 度目の開催となります。

本大会は、共通論題「『若者』問題の軌跡—その過去、現在、未来」、6 つのテーマ別分科会、11 分野の自由論題、そして教育セッション「質的調査研究を論文に仕上げるまでの心得」で構成されます。共通論題と教育セッションを除く、テーマ別分科会・自由論題の要旨は学会ホームページ掲載の PDF 版 (電子版) プログラムに掲載されます。

現時点では、共通論題を含む全セッションについてすべて対面での実施、懇親会も特段の制限なしでキャンパス内での開催が予定されています。直接対面での交流が、とくに若い研究者をはじめとする皆さまの創発に結びつくことを祈念し、各幹事と緊密に連携を取り、一同準備を進めています。

なお本大会実行委員会は、荒木宏子 (本塾大学経済学部訪問研究員)、権丈善一 (本塾大学商学部教授)、駒村康平 (本塾大学経済学部教授・経済研究所フィナンシャル・ジェロントロジー研究センター長) と私 (本塾大学経済学部教授) の 4 名で構成しています。

皆さまと直接対面でお会いする機会を一同楽しみにしております。ぜひ、学会ホームページ上の参加登録システムから、懇親会とあわせ、5 月 7 日 (火) 正午までにお申込みください。 (山田篤裕)

## 2. 第 149 回 (2024 年秋季) 大会のお知らせ

### ◆ 2 回目の大分大学大会

次々回 149 回大会の実行委員長の石井まことです。来たる 10 月 19 日 (土)、20 日 (日)、大分大学旦野原キャンパスの経済学部棟の全教室を使用して第 149 回大会を開催する運びになりました。前回、大分大学で大会を開催しましたのは東大の森健資代表幹事のもと、阿部誠実行委員長による 2006 年秋の 113 回大会であり、今回で大分は 2 回目の開催になります。今回、禹代表幹事からのご依頼であり、開催校探しはなかなか大変なことは前代表幹事の時にも承知しておりお引き受けいたしました。皆様の大分へのお越しをお待ちしております。

#### ◆懇親会について

学会の主要行事は懇親会と言っても過言ではありません。代表幹事の挨拶文でも懇親会のことを力説したにもかかわらず、一度もリアル懇親会が出来なかった不遇のコロナ禍時代でしたが、そのリベンジと、前回の「伝説の」大分大学大会に近づけるように少数スタッフながら準備を進めております。

懇親会の食材には、大分ならではのものです。ラインナップすべく準備中です。まずはお魚。今回は関アジや関サバの印象が強かったと思いますが、それにも勝るとも劣らない今回は九州屈指の漁場を誇る佐伯から調達します。佐伯には背後に祖母傾山国定公園があり、森からの栄養分が清流番匠川を通じて流れ込み、豊かな海を作っています。瀬戸内海と太平洋がぶつかる場所でもあり豊かな漁場です。ここの「道の駅蒲江」駅長さんにご協力頂き、会場にブースを作る準備を進めています。

もちろん、お魚だけではなく。東京の有名店を切り盛りされてきた麵職人による大分県産の麺料理をライブキッチンで提供を考えております。その他、大分産のお米や食材を活かした地産池消で体に優しい食材をふるまうようにしています。もちろん、お肉も地元にごこだわります。現在、知り合いの地元精肉店と交渉中です。

あとはお酒ですね。温暖な地である大分は焼酎のイメージが強いのですが、実は次期代表幹事も太鼓判を押す日本酒の名酒が多数あります。フランスの日本酒コンクールで最高賞をとった「ちえびじん」はじめ、隠れた名酒「鷹来屋」「豊潤」「和香牡丹」、それにあまり知られていない佐伯の名酒「花笑み」など大分の地酒の利き酒ができるよう、地元酒店とタイアップします。あとビールもこだわります。社会政策学会オリジナルの大分産地ビール作れないかと画策しています。

以上、地元素材にこだわってみなさまお迎えしますので、ぜひ大分まで足をお運びください。酒の肴やお食事が揃えば、会員の学術交流の勢いもつくことになると考え、実行委員会は大会（懇親会？）成功に鋭意努力していきます。

忘れていました。当日のお弁当も重要です。これは前回の大分大学大会と同じ、漫画「美味しんぼ」でも紹介された「吉野鶏めし」弁当が第一候補です。

#### ◆大分大学までのアクセス

大分へは空路で来られると大分大学までは2時間近くかかります。時間に余裕をもっていただくべく、前泊・後泊をお勧めします。なお、大分空港から人工衛星や有人宇宙船を飛ばす計画が持ち上がった関係で、大分空港は宇宙港として宣伝しています（宇宙船の運航会社が倒産して白紙状態ではありますが）。その流れで大分県は一度廃止された水陸両用艇ホーバークラフトの復活を決めています。この秋には運航開始のようです。乗り物好きの方はどうぞご試乗ください。ただ、大分までバスの半分の時間で行けるようですが、西大分というところまでしか参りません。西大分のターミナルとは対照的に、少し歩けばあたりは旧遊郭街や近くには1912年創業の大分瓦斯紡績（現フジケミカル大分工場）があります。1931年に地元の支援を受けながら2週間もの間ストライキを行い、600人もの女工たちが賃上げで争議をした工場でもあり（古庄ゆき子『豊後おんな土工』ドメス出版、1979年）、近代地方女性史の研究フィールドでもあり、時間に余裕をもって散策するのもいかがでしょうか。

#### ◆「おんせん県おおいた」について

「おんせん県」とPRしている大分県ですが、湧出量・源泉数は群を抜いており、日本の約2割の源泉が大分県にあります。よってどこに行っても温泉だらけで、泉質も多様です。大分大学の温泉博士によれば、近場の温泉のなかでは別府の〇〇会館の泉質がいいそうです。別府市内だけでも200カ所以上の温泉があり、そのうち88カ所以上回れば黒帯ならぬ黒タオルがもらえ、温泉名人として写真が永年貼られる取り組みもあつたりします。その他にも別府には東京タワー設計者である内藤多伸による通天閣の次に建てられた別府タワーもあつたりします。

以上、大分のほんの一部ご紹介しましたが、まだまだあります。だからといって、土日は寄り道せずに学会にお越しください。そこで学術交流を深め、懇親会にご参加いただいた上で、金曜日や月曜日に大分の歴史や自然をご堪能ください。大分でお待ちしております。

なお、今回も前回同様、大分大学経済学部との共催にさせていただいております。このことで、研究交流はもちろん、会場使用の便宜を受けていることをご報告いたします。（石井まこと）

### 3. 第149回(2024年秋季)大会の開催予告 および報告募集

開催日：2024年10月19日(土)～20日(日)

開催地：大分大学

ー共通論題ー

テーマ：「労働力不足で何が起きているのか」

登壇者：座長：熊沢透会員(福島大学)

報告者：石水喜夫会員(京都橘大学)

植木洋会員(鳥取短期大学)

永野仁氏(非会員・明治大学名誉教授)

大槻奈巳会員(聖心女子大学)

(※共通論題は20日(日)に開催予定です。)

また、自由論題およびテーマ別分科会の報告募集は5月下旬から6月頃を予定しております。4月下旬には募集の詳細について学会HPを通じてお知らせする予定です。ご確認ください。(山村りつ)

### 4. 第147回(2023年秋季)大会報告

社会政策学会第147回大会は、10月7日(土)・8日(日)の両日、立命館大学衣笠キャンパスで行われました。参加者の内訳は、事前登録者242名、当日参加者74名の合計316名で、懇親会の申込者は92名でした。多くの方のご参加をいただき、無事に対面開催を終えたことをご報告いたします。

#### 1) 開催準備と運営体制

本学衣笠キャンパスでの大会開催については、耐震工事等の影響もあって、2019年春季大会と2020年秋季大会の打診をいずれもお引き受けすることができず、ようやく今回の開催に至りました。一番の壁は必要な教室の予約確保にあり、入試・補習授業・大学イベント等とのバッティングを避けるべく、各部局との調整を行うのは予想以上に骨の折れる作業でした。当初は11月開催を見通して幹事会にもお伝えしていたのですが、結果的に、なるべく避けたかった10月の三連休の開催となってしまいました。

6月には4名の会員で実行委員会を組織し、本格的な準備を始めました。運營業務のうち、参加受付・プロ

グラム作成等の核となる業務は、学会の事務局業務を受託されているガリレオ社に今回も委託しました。また、キャンパス内の会場設営・備品手配・書籍搬入補助・助成金手続きなどは、本学の関連会社であるクレオテック社に業務委託したことで、実行委員の負担が相当軽減されました。

当初は開催校が担う業務の範囲やスケジュール感なども手探りの状態でしたが、事務局長の熊澤先生や大会企画委員会の山村先生・金井先生をはじめ、幹事会メンバーの皆さまのご協力と的確な助言を得て、準備を進めることができました。加えて、146回大会開催校の立教大学、145回大会開催校の日本福祉大学から、開催校マニュアルや準備作業の詳細を共有していただいたことも心強く、大変助かりました。あらためて、この場を借りて御礼申し上げます。

#### 2) 大会の内容

大会1日目は「テーマ別分科会」(6セッション)と「自由論題」(8セッション)の合計14セッションが実施されました。前者のテーマは以下の通りです。①アジアの少子化と少子化対策、②生活を支える制度の実施過程からみる課題、③「奥のコンロに置く」のをやめて—大阪府立高校通信制課程 政策変容と現在の実践、④障害者の雇用就労支援システムの現状、⑤子どもの生活困難の量的分析、⑥コロナ危機後の欧州福祉レジームの行方。自由論題では、地域福祉・労働組合・ジェンダー・貧困・労働(2セッション)・福祉(2セッション)のそれぞれで、多岐にわたる興味深いテーマが議論されました。

2日目は、午前中に書評分科会4セッション(ジェンダー・福祉研究・労働・福祉国家)が開かれ、午後からは共通論題「ケアをする権利・しない権利：脱・義務的家族介護を目指して」の報告と議論が行われました。今回の共通論題は、日本におけるケアに関わる諸制度が、家族や地域による自助・共助を前提とし「足りない」部分を社会サービスによって補うものとなっている、その基本的な姿勢を問うものでした。ケアの市場化、ダブルケアラー・ヤングケアラーの顕在化、地域ケアの在り方など近年のケアを巡る重要な動向を含め、国際比較・実証的分析・理論的検討などの多様な角度から、意義深い報告と活発な議論が行われました。

### 3) その他諸々を振り返って

初日夜の懇親会は京都の町なかでの開催を望む声もあったようですが、移動サポートや費用を勘案した結果、キャンパス内でケータリングサービスを利用することに落ち着きました。その代わりに、夜の京都に詳しい実行委員が二次会用の飲食エリアマップを作成して配布し、ご利用いただけるようにしました。また、弁当はやや高い価格設定（お茶付きで1200円）ながら、特に1日目は錦市場の仕出し屋に注文し、質にもこだわりました。少し

でも京都らしさを感じていただけたでしょうか。

開催当日の運営にあたっては、非常勤教員の方も含めた会員の先生方やアルバイト学生の皆さんが献身的に働いてくださり、頭の下がる思いでした。今回の開催に関するいくつかの反省点（プログラムの印刷部数や書籍販売ブースの設営場所など）は次回開催校にも引継ぎさせていただきます。開催校の皆さまにはご苦勞をおかけしますが、今後も対面での大会開催が継続され、全国各地を訪れる機会が得られることを楽しみにしています。

（櫻井純理）

## 5. 第147回（2023年秋季）大会会計報告

収入		(単位：円)
大会開催費	1,500,000	
大会参加費（事前納入）	557,500	
大会参加費（当日参加）	219,000	
開催校助成金	300,000	
書店の広告・出展料	125,000	
弁当収入	139,200	
懇親会収入	460,000	
収入合計	3,300,700	
支出		(単位：円)
大会経費・立替金	219,670	
休憩室飲食費	16,710	
文具・備品費	21,537	
ガリレオ委託費	812,481	
クレオテック委託費	268,900	
人件費	203,750	
振込手数料	3,360	
郵送費	1,550	
昼食費	138,974	
懇親会費	503,849	
学会会計への繰り入れ	1,109,919	
支出合計	3,300,700	

### 〈参考〉参加登録者の内訳

登録種別	区分	人数
事前登録：242名	会員（一般）	175
	会員（院生等）	32
	名誉会員	1
	非会員	19
	非会員（招待者）	2
	欠席者／未納者	13
当日参加：74名	会員（一般）	31
	会員（院生等）	6
	非会員	37

（櫻井純理）

### 第1回

2022年5月18日（木）18:00～20:00 オンライン  
 テーマ：高田一夫「個的社会的社会政策——21世紀社会政策の方向」  
 報告者：小澤裕香（金沢大学）

### 第2回

2022年7月28日（木）18:00～20:00 オンライン  
 テーマ：高田一夫「日本の積極的労働市場政策」  
 報告者：早川 佐知子（明治大学）

### 第3回

2022年9月26日（月）18:00～20:00 オンライン  
 テーマ：高田一夫「自己決定概念による貧困概念の統合——セン・タウンゼント論争を超えて」  
 報告者：志賀信夫（県立広島大学）

## 6. 専門部会活動報告

### ◆雇用・社会保障の連携部会定例研究会

2022年5月～2023年4月

それぞれの会で10～15名の参加者がありました。

#### 第4回

2022年11月30日(水) 18:00~20:00 オンライン  
テーマ:「現代の貧困理論の新たな可能性」  
報告者:志賀信夫(広島県立大学)

#### 第5回

2023年2月24日(金) 18:00~20:00 オンライン  
テーマ:「『分立型国民皆保険体制』は続くのか?」  
報告者:佐々木貴雄(東京福祉大学)

#### 第6回

2023年4月19日(水) 18:00~20:00 オンライン  
テーマ:「自己決定の支援をめぐるマイクロレベルの実  
践モデル構想」  
報告者:鈴木美貴(立正大学)

(高田一夫)

## 7. 2022-2024年幹事会報告

#### 第10回 2024年2月24日13:00~ オンライン 議事録

出席:禹 宗杭、石井まこと、伊藤大一、岩永理恵、  
垣田裕介、金井 郁、上村泰裕、禿あや美、金  
成垣、首藤若菜、白瀬由美香、菅沼 隆、田中弘  
美、所 道彦、引馬知子、栢田大知彦、百瀬 優、  
水野有香、森 詩恵、森 周子、山村りつ 熊沢  
透  
欠席:阿部 彩、小尾晴美、金子良事、田中聡子、  
藤原千沙、松本伊智朗

#### ◆議題

##### 1) 新入会員/退会の確認

新入会員の承認、会員異動の確認

- ・17名の入会を承認。
- ・23名(うち5名が逝去)の退会を確認。
- ・2名の割引申請を承認。

##### 2) 各種委員会報告・審議

###### ①学会誌編集委員会

- ・学会誌の編集状況の報告があった。
- ・第16巻1号からオンラインで年4号、2号ずつの

合本で出版するほか、ミネルヴァとの契約更改につ  
いて、報告の通り契約に進むこととなった。

###### ②春季大会企画委員会

- ・共通論題は5月18日午後であること、教育セッション内容の確定が報告された。
- ・自由論題報告31本について採択。なお、同一の人から複数の報告申請があった場合、現規程上は妨げられないが、このようなケースが増加して常態化した場合には、大会プログラム編成上の困難を避けるため、一定の対応を考えることとした。
- ・テーマ別分科会6タイトルについて採択。
- ・「春季大会企画委員会規程」改正の提案があった。正副委員長が部会選出の委員を兼ねるようにする規程改正。情報と意見の交換の後、規程の改正はせず、幹事会解釈として「兼任を認める」と合意することとした。

###### ③秋季大会企画委員会

- ・第149回大会共通論題企画「労働力不足でなにが生じているのか」の説明があった。
- ・開催校より、大分大学と大分空港の地理的關係から、2日目プログラムは16:50までに終了する必要がある点が指摘された。

###### ④国際交流委員会

- ・活動報告があった。
- ・今後の予定は来年度予算からの支出を前提にしており、次期幹事会の予算編成権を侵害しない範囲で検討することが確認された。海外研究者招聘助成の計画については、航空運賃を15万円程度を基準とし助成する。海外学会への渡航についても航空運賃を助成する。

###### ⑤社会政策関連学会協議会

- ・2024年3月9日の東洋大学でのシンポジウムについて案内があった。

###### ⑥日本経済学会連合

- ・英文年報への学会活動報告を掲載した旨の報告があった。

##### 3) 各担当報告・審議

###### ①若手研究者支援担当

- ・活動報告があった。育成フォーラムについて、大会若手研究者優秀賞の選考日程について、確認された。

- ・以前大会若手研究者優秀賞を受賞した人を再び選考対象としてよいか諮られ、意見交換ののち、「この賞の受賞は一回限りとする」と幹事会名で説明することとした。該当者には先に、その後会員全員宛に連絡する。それにあわせて必要な規程改正を準備する。

②大会調整担当

- ・両企画委員会に対して引き継ぎ事項(申し送り)があった。申し送り内容の開催校(大会実行委員会)への周知はそのつど行うこととした。

③専門部会活性化担当

- ・「専門部会内規モデル」を示し、各「専門部会内規」を作ってもらう方針が確認された。大会に参加する会員の旅費を補助できるかどうか議論された。意見交換の後、部会活動費補助規程 第2条の次の総会での改正を準備することとした。

- ・「専門部会内規モデル」は次の総会で報告することとした。

4) 次回幹事会の日程

2024年4月に予定。後日調整することとした。

5) その他

(熊沢 透)

8. 承認された新入会員

2024年2月幹事会承認(17名)

島西智輝	立教大学経済学部教授	労使関係・労働経済労働史・労働運動史
黒田 学	立命館大学産業社会学部学部長	社会保障・社会福祉生活・家族その他(障害児者福祉、特別支援教育)
笠原良太	実践女子大学生生活学部生活文化学科専任講師	生活・家族その他(教育)
清水 拓(入会承認待ち)	早稲田大学文学学術院招聘研究員	労働史・労働運動史その他(詳細記載なし)
亀山裕樹	北海道大学大学院教育学院教育福祉論研究室大学院学生	社会保障・社会福祉生活・家族
高倉弘士	芦屋大学経営教育学部経営教育学科専任講師	その他(社会福祉経営に関する研究、福祉運動、社会運動)
対馬洋平	明治大学大学院経営学研究科大学院生	労使関係・労働経済
原 佳奈子	(所属記載なし)	労使関係・労働経済社会保障・社会福祉ジェンダー・女性
市川 樹	東北学院大学地域総合学部政策デザイン学科専任講師	社会保障・社会福祉
王 佩萱	大分大学大学院経済学研究科地域経済専攻大学院学生	労使関係・労働経済社会保障・社会福祉
巩 大維	東京福祉大学社会福祉学研究科社会福祉専攻博士後期課程大学院学生	社会保障・社会福祉
寺田 岳	一橋大学国際・公共政策大学院公共法政プログラム大学院学生	社会保障・社会福祉
田中 涼	美作大学生活科学部社会福祉学科	社会保障・社会福祉
笹野美佐恵	茨城大学人文社会科学部現代社会学科講師	社会保障・社会福祉ジェンダー・女性生活・家族(比較社会学、人口学)
濱名仁美	慶應義塾大学大学院商学研究科大学院学生	社会保障・社会福祉
徐 明仿	Central Taiwan University of Science and Technology Department of Eldercare	社会保障・社会福祉
呉 桐	筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院人文社会科学研究群国際日本研究プログラム学位大学院学生	労使関係・労働経済労働史・労働運動史ジェンダー・女性